

5 京田辺市刊行埋蔵文化財調査報告書の電子公開

諫早直人・陰地祐輝・吉兼千陽

1. はじめに

全国で1年間に発行される埋蔵文化財発掘調査報告書（以下、報告書）は1500冊にもなるという。その多くが印刷物であり、非売品である。旧田辺町（-1997年）と合わせて44冊の報告書（概報含む）を刊行してきた京田辺市も例外ではない。京都府立大学文学部考古学研究室では、京田辺市史編さん事業の一環で2018年度より京田辺市（旧田辺町を含む）から刊行された報告書の電子化（PDF化）をおこなってきた¹⁾。その第一の目的は市史編さんのための基礎資料の確保にあるが、あわせて一定の精度でスキャンして得られた報告書PDFデータを公開し、市民や研究者に供することも当初より視野に入れながら作業を進めてきた。この度、京田辺市市民部市史編さん室、および文化・スポーツ振興課を通じて、すべての報告書が「全国遺跡報告総覧」²⁾に登録・公開されたので、ここに報告する次第である。（諫早直人）

2. 京田辺市刊行埋蔵文化財調査報告書の電子化

報告書を電子化するにあたって、スキャンする際の解像度やテキスト処理の精度などについては、基本的に（独法）国立文化財機構奈良文化財研究所の「全国遺跡報告総覧データ登録マニュアル」³⁾にて示されている基準に従ったが、上述のとおり、本作業の第一目的は市史編さんのための基礎資料の確保にあるため、スキャンの際は解像度だけでなく画像の鮮明さなどにも留意した。

まずスキャン作業については読み込み精度を上げるため、京田辺市から提供を受けた報告書をすべて裁断して1ページずつスキャンをおこなった。スキャナーは「EPSON GT-X830」を使用し、解像度は600dpi、画像のファイル形式はTIFF形式に統一している。報告書の紙質によっては裏写りするものもあるため、スキャナーの設定や画像編集ソフト「Adobe Photoshop」を使用して、画像データの修正をおこなった。この際、掲載されている写真の色調や雰囲気そのまま電子化できるよう設定をその都度変更するなど、画像の仕上がりには特に注意を払った。画像の修正後、これらのデータをPDFに変換、結合し、報告書内の文章をテキストとして認識させる処理をおこなった。そして、最後にファイルを軽量化し、「全国遺跡報告総覧」にアップロードできる形式に最適化させる。これらの作業はすべて「Adobe Acrobat Pro DC」でおこなった。

作業期間はおおよそ1年間であったが、実際の作業日数としては1ヶ月程度であった。この中で京田辺市（旧田辺町を含む）が刊行した全ての報告書の電子化をおこなった。作業を進める中で、報告書の電子化に要する時間と生成されるデータの質のバランスが課題となった。今回スキャンをおこなった「EPSON GT-X830」はオートドキュメントフィーダーをもたず、1ページずつスキャンする必要があるため、ページ数の多い報告書を電子化する際は非常に時間

がかかる。試験的にオートドキュメントフィーダーをもつ機種でスキャンしたところ、スキャンにかかる時間は大幅に短縮したが、1ページずつの読み込み精度は落ちるため、その後の画像処理にかかる時間が増加した。電子化の目的や設備環境などに応じて電子化の方法を柔軟に使いわけることが重要と考える。とりわけ今回のように貴重な報告書を裁断してスキャンする場合は、報告書の情報をできる限りそのままの画質で電子化した上で、電子公開に適したファイルサイズに圧縮するのが望ましい。(陰地祐輝)

3. 京田辺市刊行埋蔵文化財調査報告書の電子公開

京田辺市市民部文化・スポーツ振興課では、2020年(令和2)4月から5月にかけて、京都府立大学において電子化された本市(旧田辺町を含む)刊行報告書の全文データを「全国遺跡報告総覧」に登録する作業をおこなった⁴⁾。本市の報告書については、これまで、各方面から入手したいという要望がしばしば寄せられていた。在庫があるものについては有償で提供してきたものの、在庫がないものは公共図書館等で閲覧及び一部複写していただく他に方法がなく、このことは本市としても懸案のひとつであった。そのため、このたびの「全国遺跡報告総覧」への登録により、多くの人が容易に利用することが可能になった意義は大きい。

「全国遺跡報告総覧」は、大容量データの掲載が可能であることに加え、詳細検索や遺跡情報の検索機能を備えており、報告書の公開と活用において非常に有用なツールである。登録作業は上述の「全国遺跡報告総覧データ登録マニュアル」に示されている手順に従っておこなったが、検索機能が十分に生かされるよう、所収遺跡の情報(抄録データ)もなるべく詳細に入力するよう心がけた。本市ホームページ上でも「全国遺跡報告総覧」のリンクを掲載して報告書の公開を周知しており、今後、多くの市民や研究者による活用が期待される。(吉兼千陽)

4. おわりに

以上が市史編さん事業を奇貨として進めた「全国遺跡報告総覧」登録作業の概要である。電子公開にあたって最大のネックとなるスキャン作業を、人的資源が豊富で一定程度の設備を揃えた大学が分担するという今回のあり方は、市の文化財行政と大学教育の双方にとってメリットがあり、中小規模の自治体における報告書電子公開の一つのモデルケースとなるのではないだろうか。(諫早)

註

- 1) 電子化作業は諫早直人の指導のもと、陰地祐輝(現、神河町教育委員会)、守田悠(3回生)が担当した。
- 2) 全国遺跡報告総覧(<https://sitereports.nabunken.go.jp>)は、埋蔵文化財発掘調査報告書をインターネット上で公開することで、誰でも手軽に調査・研究や教育に利用できる環境の構築を目指して、(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所を代表機関として、自治体、大学、博物館、法人調査組織、学会等が共同で推進している事業である。2021年2月1日時点で、約500機関の約27000件のPDFデータが公開されている。
- 3) 「全国遺跡報告総覧データ登録マニュアル」は下記よりダウンロード可能である。<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/abouts/participation> (最終閲覧日:2021年2月1日)
- 4) 登録作業は、京田辺市市民部文化・スポーツ振興課の吉兼千陽、上野あさひが担当した。